

令和8年 PTC ジャパン株式会社 年頭ご挨拶

PTC ジャパン株式会社
社長 執行役員 神谷 知信

2026 年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、生成 AI の実用化が製造業における最大のトピックとなりました。設計・開発から生産、サービスまでのライフサイクル全体で、AI による設計自動化、品質予測、需要予測、保守計画の最適化が急速に広がり、日本企業においても DX は「必須」から「競争力の源泉」へと変わりつつあります。

PTC は、AI を組み込んだ IPL (Intelligent Product Lifecycle) 基盤の強化を進め、この変革をリードしてまいります。IPL とは、3D CAD の Creo, PLM (Product Lifecycle Management) の Windchill (ウィンチル)、ALM (Application Lifecycle Management) の Codebeamer (コードビーマー)、SLM (サービスライフサイクル) の ServiceMAX (サービスマックス) などの個々の AI 強化を行うとともに、各ソリューション間の連携について、人を介さず AI による完全自動化を目指していくものです。これは製造業が抱えている多くの課題を抜本的に解決できるとともに、開発プロセス全体の高度化やカスタマーエクスペリエンスの向上を実現し、産業革命以来のものづくりの大変革になると確信しております。

特に 100 年に一度と言われている自動車産業で変革期においては、EV・SDV (Software Defined Vehicle : ソフトウェア定義型車両) の競争が一層激化し、ソフトウェア開発のスピードと品質が必須要件となっています。PTC は、Codebeamer による ALM ソリューションに AI を組み込み、テストケースの自動生成、リスク分析、コンプライアンスチェックを強化しました。2026 年は、こうした AI 活用をさらに拡大し、国内外の自動車メーカーの SDV 開発を強力に支援してまいります。

また、昨年はパートナー各社とのアライアンス強化にも注力し、地方を含む幅広い製造業のお客様にデジタル化の価値を届ける体制を整えました。特に国内の中小企業においては紙や 2D CAD、PDF を中心とした図面作業、物理的な情報のすり合わせがいまだに多く、引き続き 3D 化、PLM によるリアルタイムのデータ共有による業務改革を推進し、ものづくりの現場に新しい可能性を提供してまいります。

これから将来を左右する人材育成に関しては、3D CAD において唯一の SaaS ネイティブ アプリケーションである Onshape の展開をさらに加速させ、デバイスや場所を問わずクリエイティビティを発揮できる環境を提供してまいります。また設計データは単なるものづくりに

使われるだけではなく、マーケティングやサービス、営業活動にも最大限利用されるべきと考えており、その啓蒙活動を通じて新しい可能性を追求してまいります。

本年も、社員一丸となってお客様の声に耳を傾け、日本の製造業が次のステージへ進むための伴走者として全力を尽くしてまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



PTC ジャパン株式会社
社長 執行役員 神谷 知信

報道関係者お問い合わせ先

PTC ジャパン株式会社

マーケティング本部

<mailto:mkt-japan@ptc.com>